

令和5年7月5日

開かれた里山の整備・利用計画書

長野 地域振興局長 様

里山整備利用推進協議会の名称

七二会里山整備利用推進協議会

住所

長野市七二会丁211-1

代表者 氏名

会長 水口 敏弘

1. 里山整備利用地域の名称等

名 称	七二会2地区	
認定年月日	令和元年7月19日	
認定面積	5.0	ha

2. 県民協働による里山の整備・利用事業（一般）の実績及び計画（平成30年度以降）

単位：万円

活用実績・計画	元年度	2年度	3年度	年度	年度	計
里山整備利用地域活動推進事業 (最長3年間：補助率10/10以内)	68	79	124			271
里山資源利活用推進事業 (上限事業費150万円：補助率3/4以内)	0	0	112			112

3. 「開かれた里山」における活動の基本方針

(1) 里山整備利用地域における協議会の活動状況

荒廃した森林に侵入した竹が、降雪のたびに生活道路に覆い被さったり、有害鳥獣の住処と化していたため、問題意識を持った地区の有志が、侵入竹の除伐を行うことで竹林を整備し始めた。

整備した竹林から出るタケノコの収穫を始め、さらには、竹チップ・竹パウダーや竹炭を生成し、農業分野での利活用を進めている。

そして更級農業高校との連携した活動が地域の新聞等で紹介されたこともあり、その報道をきっかけに問い合わせが増え、他の面でも活用ができないか、などの広がりを見せている。

(2) 里山整備利用地域の特長

里山整備利用地域では、森林整備をし、みんなで支える里山整備事業の県民協働による里山整備を活用している。

また、竹林は急斜面に位置しており、作業の進捗ははかどりにくい面もあるが、市道に隣接しているため、アクセスは比較的容易だと言える。

(3) 「開かれた里山」としての整備・利用の方針

ア より多くの県民等が広く親しめる「開かれた里山」づくりの考え方

協議会が、降雪や鳥獣の住処など、生活する上で支障となっていた竹の除去を始めたところ、荒れ放題だった森林に光が射し込み、その後に生えてくるタケノコは良質なものが多く、見通しも良くなり、収穫するための危険度がかなり軽減された。

そこで、タケノコ収穫期を「筍取り物語」と位置付け、内外からの集客を図る。実際、竹伐採や竹パウダーなどの生成体験と併せて実施したところ、参加者から大変喜ばれた。

今後は、さらに整備を進め「山に踏み入る」ことの楽しみを実感してもらえるように範囲の拡大と危険除去に努めていく。

また、タケノコの収穫だけでは期間が1ヵ月ほどと限定されてしまうので、それ以外の期間でも気軽に訪れていただけるよう、竹灯籠（ランタン）作りの講座を開き、手作りのランタンが手軽にできる喜びを味わってもらうなど、さらに竹に対して、また森林に対して親しみを持ってもらうきっかけ作りを企画していく。

イ 「開かれた里山」における森林整備の方針

「侵入竹の除伐を進め、良質なタケノコを収穫したり、除伐した竹でチップ（パウダー）や炭を生成し、いろいろな分野での活用を模索する。」という従前の基本的な整備方針を継続していく。

さらに今後は、子どもたちも含めた多くの人たちに気軽に山に入ってもらえるよう、切り株の抜根など、危険除去にも注力していくとともに、休憩場所や体験コーナーを整備する予定である。

また、整備するエリアの中に「皆伐したエリア」と「間伐したエリア」を設け、さらに、継続した整備をしないと帰化してしまうことを理解していただくために「一度だけ整備し、その後の整備をしない」エリアも設け、継続しないと意味がない、という課題を実感していただく。

ウ 「開かれた里山」の整備・利用に向けた里山整備利用推進協議会の活動

従前の整備を継続するとともに、より多くの人々が「レクリエーション」及び「観光資源」等として利用できるように整備を行う。

具体的には、タケノコの収穫時期に合わせた「筍取り物語」を実施し、市街地の親子などにタケノコの収穫体験をしてもらう。

また、協議会の会員には当たり前の作業である「竹を伐る」こと自体が、イベントとして成り立つこともわかったため、他の体験と合わせるなど、幅広い年代層に関心を持ってもらえるよう企画力を高めていく。

さらに、親子でも大人でも楽しめる竹ランタン作りや、竹トンボや水鉄砲作りなどを企画し、起伏のある広いエリアで楽しんでもらう。

地元の小学生にはこれまで門松作りや、飾り皿作りに竹を提供してきたので、実際にその竹がどこにあるのか、どうやって伐るのかなど、現地の見学や伐採体験をしてもらい、森林や自然に親しんでもらうきっかけ作りを働きかけていく（小学校・公民館・子どもプラザ等）。

(4) 「開かれた里山」の対象とする里山整備利用地域の面積及び位置

面積

5 ha

位置は別添森林計画図のとおり

4. 「開かれた里山」の整備・利用の全体計画

計画内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	計
「開かれた里山」における森林整備 計 (ha) (m)	0.20	0.31	0.21	0.20	0.20	1.12
花木等の植栽 (ha)		0.01	0.01			0.02
下刈り (ha)						
修景林間整備 (ha)						
竹林整備 (ha)	0.20	0.30	0.20	0.20	0.20	1.10
① その他整備 () (ha)						
② 付帯施設等整備 () (m)						
「開かれた里山」における 里山整備利用地域活動推進事業 (2年間：補助率10/10以内) 整備計画の策定・地域の合意形成等 (万円)	50.0	16.0				66.0
「開かれた里山」における 里山資源利活用推進事業 (上限事業費100万円：補助率3/4以内) 資機材導入等 (万円)	0.0	30.0				30.0

5. 「開かれた里山」における活動の広報計画

広報活動の計画 (具体的な方法、頻度等)	HP	”なにあいドットコム” (住自協HP)
	SNS	インスタグラム・フェイスブック
	広報誌等	

6. 「開かれた里山」における県民等の利活用計画人数 (計画年度から5年後まで)

計画の内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	合計
イベント等による利活用計画人数 (人)	40	50	60	60	60	60	330
イベント以外の利活用計画人数 (人)	55	85	135	95	140	80	590
合計 (人)	95	135	195	155	200	140	920

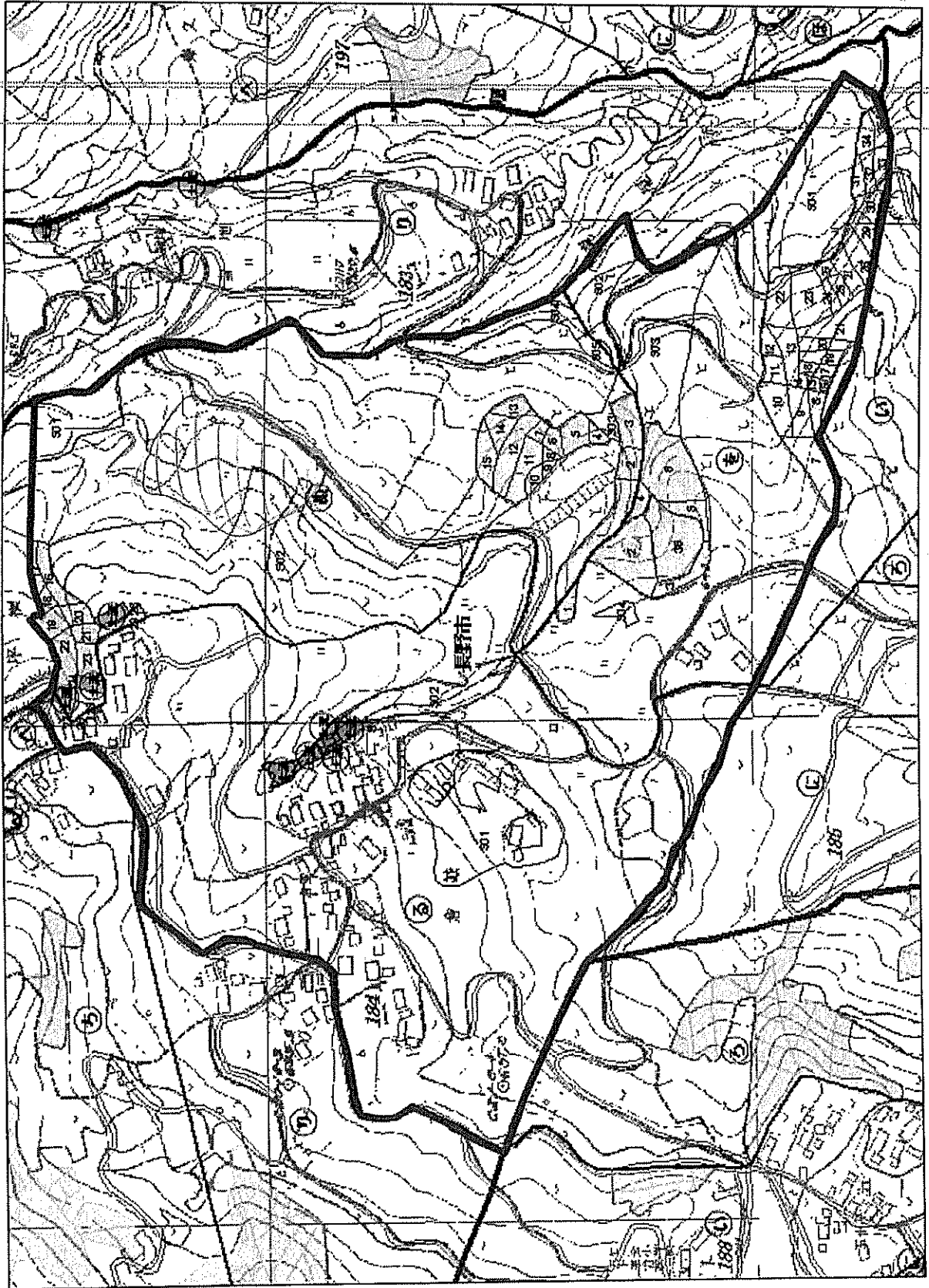
開かれた里山整備・利用事業 活動予定表

七二会2

時 期	活動内容	イベント利用人数	会員利用人数	合 計	備 考
令和5年6月	(竹伐採体験、タケノコ収穫)			0	実施済み25人
令和5年6月	会員による整備		10	10	
令和5年6月	(竹伐採体験、タケノコ収穫)			0	実施済み8人
令和5年10月	竹伐採体験	10		10	
令和5年10月	会員による整備		20	20	
令和5年11月	会員による整備		10	10	
令和5年11月	竹ランタンづくり	10		10	
令和5年11月	チップ生成体験	10		10	
令和5年12月	ミニ門松製作	15		15	
令和6年3月	竹伐採～竹ランタン製作	10		10	
令和5年度計		55	40	95	
令和6年4月	竹伐採体験	10		10	
令和6年4月	会員による整備		10	10	
令和6年5月	竹伐採体験	10		10	小学校
令和6年6月	会員による整備		20	20	
令和6年6月	タケノコ収穫、伐採	30		30	3団体
令和6年6月	チップ生成体験	10		10	
令和6年10月	会員による整備		10	10	
令和6年10月	竹伐採～竹ランタン製作	10		10	
令和6年11月	会員による整備		10	10	
令和6年11月	竹伐採～竹ランタン製作	15		15	小学校(保護者)
令和6年度計		85	50	135	
令和7年4月	竹伐採体験	10		10	
令和7年4月	会員による整備		10	10	
令和7年5月	竹伐採体験	10		10	
令和7年6月	会員による整備		20	20	
令和7年6月	タケノコ収穫、伐採	60		60	表年
令和7年6月	チップ生成体験	30		30	農業団体
令和7年10月	会員による整備		20	20	
令和7年10月	竹伐採～竹ランタン製作	10		10	
令和7年11月	会員による整備		10	10	
令和7年11月	竹伐採～水鉄砲製作	15		15	
令和7年度計		135	60	195	
令和8年4月	竹伐採体験	10		10	
令和8年5月	会員による整備		20	20	
令和8年5月	竹伐採体験	10		10	
令和8年6月	会員による整備		10	10	
令和8年6月	タケノコ収穫、伐採	30		30	
令和8年6月	チップ生成体験	20		20	

時 期	活動内容	イベント利用人数	整備利用人数		備 考
令和8年10月	会員による整備		10	10	
令和8年10月	竹伐採～竹ランタン製作	10		10	
令和8年11月	会員による整備		20	20	
令和8年11月	竹伐採～竹ランタン製作	15		15	
令和8年度計		95	60	155	
令和9年4月	竹伐採体験	20		20	
令和9年5月	竹伐採体験	20		20	
令和9年5月	会員による整備		20	20	
令和9年6月	会員による整備		10	10	
令和9年6月	タケノコ収穫、伐採	60		60	
令和9年6月	チップ生成体験	10		10	
令和9年10月	竹伐採～竹ランタン製作	10		10	
令和9年10月	会員による整備		10	10	
令和9年11月	会員による整備		20	20	
令和9年11月	竹伐採～水鉄砲製作	20		20	
令和9年度計		140	60	200	
令和10年5月	竹伐採体験	10		10	
令和10年5月	会員による整備		10	10	
令和10年5月	会員による整備		20	20	
令和10年6月	タケノコ収穫、伐採	10		10	
令和10年6月	チップ生成体験	30		30	
令和10年10月	竹伐採～竹ランタン製作	20		20	
令和10年10月	会員による整備		10	10	
令和10年11月	会員による整備		20	20	
令和10年11月	竹伐採～水鉄砲製作	10		10	
令和10年度計		80	60	140	
総合計		590	380	920	

長野市七二会2地区里山整備利用地域位置図



凡例
 道路
 河川
 小池
 高層林
 雑木林



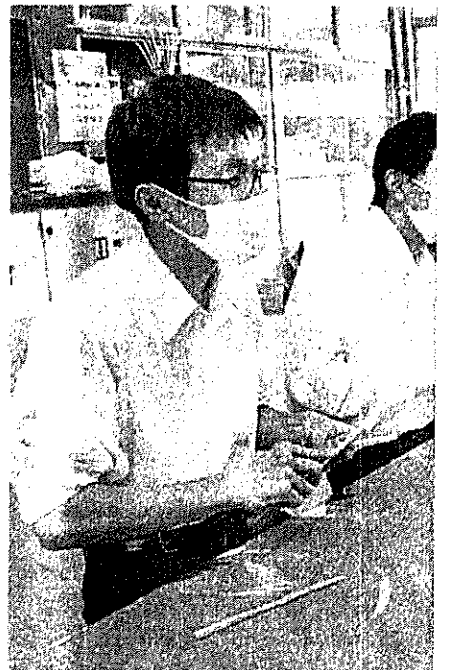
1:5,000



2022.7.31 信毎"ヤンジャ"



食器用洗剤を作ったり、試作品の汚れの落ち具合を確認したりする更級農業高校JRC部員たち=7月19日、長野市の同校



細く切った竹を削って箸を作る

発想の広がり 地域も期待

県内の各農業高校は、日々の学習や地域課題への取り組みを通じてSDGsの達成に貢献できようという宣言を掲げている。更級農業高校は今月2月、ホームページ（HP）に宣言を公開。各コースの主な取り組みはSDGsのどの目標達成と関係するかならわしている。

例えば、施設野菜コースではスマート農業と水耕栽培が、目標の「産業と技術革新の基盤をつくろう」と「持続可能な消費行動への移行」を促している。生徒一人一人も野菜を育てるSDGsを学ぶ。農産物や加工品、JRC部の活動もSDGsの目標達成と関係して取り組んでいる。

ている。

施設野菜コースは2020年度から、放置竹林の整備に取り組み長野市の「七ヶ倉山整備利用推進協議会」が作る竹の粉末「竹パウダー」を工芸材料として授業で使うようになった。今後は目標達成と関係する施設野菜一小森ナスの栽培に「パウダー」を使うことも計画している。

同協議会の水口敏弘会長（68）は「若い世代と活動するよう、（学校）などで自分たちでは思い付かなかった発想が得られる。竹の伐採は重労働だが、使い道が広がれば自分たちの活動の励みになる」と期待している。

17の目標と、関連した169のターゲットが迅速で採択されている。法的拘束力のある193か国全てが採択している。

夏のスポーツ特集!

2022.7.7 毎

放置竹林整備で 広がる活動の輪

長野・七二会住民有志

竹有効活用へ 土壌改良用「パウダー」作り難航も...

長野市七二会の住民有志14人でつくる「七二会里山整備利用推進協議会」が、放置された竹林の整備に取り組んでいる。土壌改良剤として使える竹の粉末「竹パウダー」を作る研究を進めており、思うように結果が出ずに諦めかけていたところ、高校や民間企業が協力、活動の輪を広げ、竹を有効活用しようとする意欲を高めている。

協議会が整備するのは輪地、40年前に耕作放棄地とな集落の急斜面にある竹林。30り、竹が生えずに放置されてい



1.2年目の竹で作った竹パウダー



竹パウダー作りのため竹を機械で粉砕する更級農業高校の生徒ら＝長野市七二会

更級農高・企業協力 実現へ手応え

た。有害鳥獣のすみかになり、景観を損ね、道路に覆いかぶさるなど生活に影響が出たため、整備しようとする。2019年に協議会を立ち上げた。

地主の了解を得た0.5畝で活動。タケノコを取壊すのが、竹パウダー作りを進めてきた。竹に含まれる乳酸菌は農作物の生育を助け、土壌改良剤にもなる。だが、信州大工学部に依頼し、作った竹パウダーを調べたが乳酸菌は含まれておらず、成果が出ずに壁にぶつかった。

協議会が竹パウダーの活用方法を探ると、県内の種苗会社や農業高校などに声をかけたところ、長野市の更級農業高校が手を挙げた。協議会の竹パウダーを授業でも使っていたが効果は思わせず、自分たちも関わりたいと参画した。

そのほか市内の印刷会社「アルキヤスト」も協力を申し出た。同社はSBCの「持続可能な開発目標」の目標で、国産の竹を原料にした竹紙のメッシュやシートを売り出している。竹パウダーの事業化を視

野に入れており、東佑善社長（60）は「厄介者というイメージの竹は、実は持続可能性がある」とPRしたいと話す。

同社は6月中旬、千歳県八街市で竹パウダーを生産する農家を視察。これまで協議会はさまざまな年数の竹をパウダーにしていたが、1、2年目の竹で作っていることが分かったといい、ヒントを持ち帰った。

今月1日にほろろ音が初めて集まり、1、2年目の竹で作業。パウダーにした数日後には乳酸菌特有の甘い香りがして、手応えを得た。同校3年の百崎さん（18）は「竹にはいろいろな可能性があると思う。何かできるのを見つけていきたい」と話す。

協議会によると、七二会地区内には放置された竹林が各所であり、整備してほしいとの声が上がっている。現在整備している場所を手いっせいであるが、水口敏弘会長（65）は「効率よく整備し、竹を利用できる道筋がつくれたら、地区に活動を広げることができると話している」。

藍染め 技法にも注目を 須坂クラシック美術館で企画展

須坂市の須坂クラシック美術館は、藍染めの技法にも注目を集めている。伝統工芸を紹介する同館の企画展「須坂市須坂クラシック美術館 藍染め」が、7月10日から12日まで開催される。須坂市は、上野原の型染め職人が、藍染めに使う道具が並ぶ。自然由来の色素を使った液で手染めした藍染の着物、藍染めの際に使用する道具、藍染の道具、染め液の作り方を紹介する。展示は、7月10日から12日まで。入場料は、大人100円、中学生以下50円。問い合わせは、須坂市観光課。電話：0266-22-1111。

「須坂市須坂クラシック美術館」展

知らなくて4
演会には約
の輪が広が

本番に向けて調整する蒸治ごまち太鼓のメンバー

太鼓た 12日の「な

いと奮気込む。
メンバーは13人で平均年齢15歳。
台風19号災害では市長沼交流センタ
ーに保管していた太鼓45張りが流さ
れたが、後に民家や畑から31張りが
すくすくタケノコ旬を食卓に
長野市七二会「淡竹」収穫始まる

すくすくタケノコ旬を食卓に 長野市七二会「淡竹」収穫始まる



高さ50センチほどに育った淡竹。協議会員が次々と刈り取った17日

高野市七二会で淡竹の収穫
が始まっている。青空がのぞ
いた7日、七二会里山整備利
用推進協議会の住民らが、鎌
で丁寧に刈り取っていた。
急斜面のあちこちで天に向
かかって伸びるタケノコは、高
さが1メートルを超えるものがある
一方、落ち葉の下からひょこ
こり顔を出したばかりのもの
も。水口敏弘会長(65)は「50
センチほどに伸びたものがシャキ
シャキとした食感で歯応えが
良く食べ頃。アクが少なく調
理が簡単なので、タケノコ汁
などにして初夏の旬の味を楽し
んでほしい」と話す。
多い年は一日60センチ採れ

たことも。水口会長によると、
豊作は2年周期で今年は少な
い年に当たる。1日に始めた
収穫は下旬まで続き、市内の
スーパや道の駅に並ぶ。
同会は地域の放棄竹林を整
備し、竹の利活用を目的に2
019年に発足した。タケノ
コ販売の他、竹の粉末を土壌
改良に利用できないかと、更
級農業高校(長野市)と一緒
に研究している。

千曲市民プール 中学生清掃に汗 3年ぶりオープンに向け

千曲市新田の更境中央公園
市民プールで7日、同市植生
中学校の全校生徒約270人
が、プールサイドや更衣室の
清掃をした。1980(昭和
55)年から続く恒例行事。新
型コロナでプールは202
0、21年と休業しており、3
年ぶりのオープンに向けて草
取りなどに汗を流した。



プールの設備を清
掃する生徒たち

プールの設備を清
掃する生徒たち

への経営面の助言や独立開業
に向けた物件探しの支援
も担ってもらう。市商業観光
課は「市内で開業を目指す人
を後押しし、市中心部にき
わいの核となる施設を目指
す」としている。
これを告げるのは、物価高騰
で困難する子育て世帯支援で
中学生までの子ども1人当た



2022.6.8

チャレンジショップとして
貸し出す予定の建物

目指す人に店舗として貸し出
すチャレンジショップや、催
しなど利用できるスペース
を整備し、「賑わい創出拠点
やまじゅう」の施設名で9
月の開業を予定している。
2棟の延べ床面積は517
平方メートル。うち1棟は市が所有
し、郷土食の調理体験ができ
る施設などとして使われてき
た。もう1棟は市が所有して

1階には厨房を備えた飲
食店スペースや物販スペース
を、2階には交流スペースを
整備し、チャレンジショップ
として貸し出す。イベントに
使えるよう屋外にはウッドデ
ッキやステージを設ける。
市は、合同会社「U・I・
international
ユーアイインターナシヨ
ナル」(代表取締役社長、

技と心 井坪工務店 Presents 6月11日(土)
信濃グランセローズ VS 新潟アルビレックスBC
試合開始/13:00 開場/11:30
伊那スタジアム
南箕輪村デー
野球観戦と一緒に、南箕輪村提供のイベントをお楽しみください。

クリーンな再
電気什
暮らし
太陽光

長野市民新聞

5月12日(木)

長野市民新聞社

編集制作センター

T384-0043 長野市中央1029-1
フリーダイヤル
0120-06-5511

TEL 23-5811 FAX 23-5500
shimane@vis.its.jp

南長野支社

T387-8877 長野市井田南1285-3
TEL 209-5888 FAX 299-5977
nshimnik@grn.jamk.or.jp

T381-0921 長野市南浅井138
TEL 251-1546 FAX 222-2533

©長野市民新聞社 2022

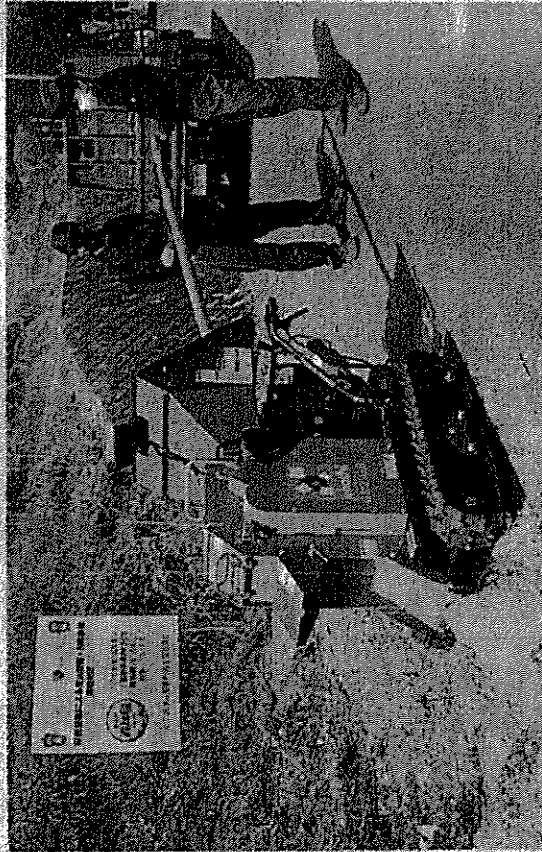
竹伐し 竹たねば 何とかせねば

七三会地区の住民有
森が、地元の論地る
んじ集落にある林
で伐した竹の活用策
を更級農産高校生徒と
一緒に模索している。
これまで竹を粉末に
した「竹パウダー」を
作り、土壌改良材とし
て高校の畑で試用。本
年度は生徒が竹の皮や
匹を使った食器用洗剤
の開発を進めるほか、
竹製の農業用椅子や割
り箸の製作に取り組
む計画だ。

竹は、かつては全
約50%。長年荒れ、有
害鳥獣のすみかになっ
たり、倒れた竹が農産
をふさいだりして農産
を損ねていた。住
民有志13人でつくる
「七三会里山整備利用
推進協議会」が19年

七三会で利活用探る 更農生協力、洗剤や箸へ

成り、4月からは森
林づくり農産協を活用
して整備を進めてき
た。多くは収穫し
て販売し、収入が
増えた。今年も
伐採し、活用策
を模索している。



粉砕機で竹パウダーを作る生徒

同協議会は、竹パウ
ダーが中東政府に使
える前、20(令和
2)年に高校に試用を
依頼。施設園芸科施設
野菜コース3年生が庄
庭野菜「小松菜」な
すとミニトマトの
栽培に活用。使った
ものの目立った効果
が見られなかった。本
年度は収穫する時
の量を増やして再挑
戦する。

「回コース生徒4人の
グループは、竹の利活
用を本年度の課
題研究に据え、
食器用洗剤の開
発に取り組み。
洗剤をすすすと
きれいな洗剤の効
果に着目した。
作った洗剤は福
祉施設や子ども
食堂に提供する
方針だ。グル
ープ代表3年生
の巨頭子さん
(18)は「竹製
作りのために麻
も手作りした。
天然由来の洗剤
を提供したい」
と意気込む。
ほかにも、壁面
などに竹を使っ
た椅子を作っ
て高齢者に配
する予定。竹製の

製り書に
ベントで
いてPR
6日に
七三会
状地域
ア

若木の雑巾作りグループ
雑巾を
校や施設
る有観地
イアール
の会は
単位を活
るめの会
を創設し
毎戸開く
手段が
の活動が
な理由で
も活動の

地域を 支える



— 103 —

七二会里山整備 利用推進協議会

七二会地区で森林や生活道路まで侵入している竹を伐採し、農会・七二会地域活性化を回復する一方、住民委員会内で竹やぶ整備の安全を守っている。を研究するプロジェクトは今後、メンマやチップになって、今年4月にPに有効活用して地域発足。プロジェクト

邪魔な竹の伐採作業 チップやメンマに活用



竹やぶ整備に精を出す会員たち(11月30日)

1ムが昨年5月に地域住民から住宅の敷地内に竹が侵入して困っているという相談を受けた。

け、同6月にかけて竹を伐採したことがきっかけだった。その際に収穫したタケノコは市場に出したところ期待より安く、竹を加工したパウダーも効果を検証できず販売までこぎ着けなかった。そのため、作業代を捻出できなかったばかりか、竹の粉碎機の燃料費も会員の持ち出しとなり、会員はモチベーションが低下した。この経緯から、「義務感や正義感だけで活動は長続きしない」と実感。行政から補助金を受け、継続的に活動

がでるようになったチップは、後で会員組織を設立した。今年5月には飯田市を訪れ、地域全体を巻き込んで楽しみながら竹やぶを整備して収穫したタケノコをメンマに加工しているグループを視察。自分たちも楽しみながら活動を自指すことにした。9月に県の補助金を受け、チェーンソーやヘルメットなど伐採に必要な資機材を購入。11月4日と30日にそれぞれ約10人の会員が集まり、道路沿いの竹を伐採し、粉碎機でチップと戻置している。

(吉村麻未)

長野美専生が 人権ポスター

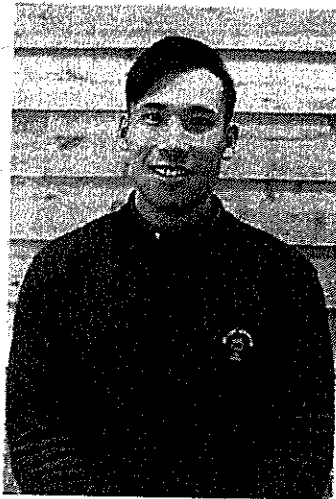
長野美術専門学校Ⅱ中御所Ⅱのビジュアルデザイン科デザインラインゼミで学ぶ1、2年生12人が、人権啓発のポスターを制作した。24日まで、JR東日本長野支社管内とよしの鉄道走る電車内に掲示されている。ハンセン病のイラスト(嫌が



言葉の暴力の問題を訴えるポスター

17種類制作 電車内に掲示

戸隠スキー場営業担当
里野太吾さん(24)



本年度から戸隠スキー場 設の魅力を紹介して、ランをリニューアルし、メと戸隠キャンプ場、戸隠牧 すと。戸隠の核となる観光施設 ニューも一新。コンサートなど多彩なイベントを計画しています。バリエーション豊かな19のコースが魅力で、幅広い世代に由来てもらえるようPRに力を入れていきます。

趣味は筋トレ。

場を運営する「株式会社戸隠」で営業を担当。県内外のイベントに出掛け、スキー場は冬季、レスト 楽しいですね。

市県部店れ会市防の渡向料 長てま

